

市町村職員自主研究グループ支援事業

都城市中心市街地のウォーカブル化を目標とした
公共空間の実験的利活用について

都城市自主研究グループ

研究テーマ:都城市中心市街地のウォーカブル化を目標とした公共空間の実験的利活用について

1.グループの概要

都城市自主研究グループは、まちづくりをハード面で担う道路公園課及び住宅施設課、ソフト面で担う都市計画課及び商工政策課の有志で構成しており、複雑化するまちづくりの課題に対して、部署横断的な施策を検討することを目的に立ち上げたものである。

2.研究の目的、ねらい

都城市の中心市街地中核施設「Mallmall(まるまる)」周辺のエリアでは、歩行者数が着実に増加している一方で、かつての繁華街である千日通り周辺においては、歩行者数の推移が横ばい又は減少傾向となっている。

歩行者数が増加しない要因として、各商店の集客力の問題とは別に、歩行者の滞留空間が少ない、歩行者と車両との距離が近いといった、“車中心”となっている公共空間の構造が、にぎわい創出の阻害要因のひとつとして考えられる。

本研究では、イベントの開催に併せて滞留空間を現地に作り出すことで、来場者の滞在時間や店舗の売上がどのように変化するかを検証するものである。



1977年(100店舗以上が立地)



2025年(現在は15店舗ほど)

3.活動内容

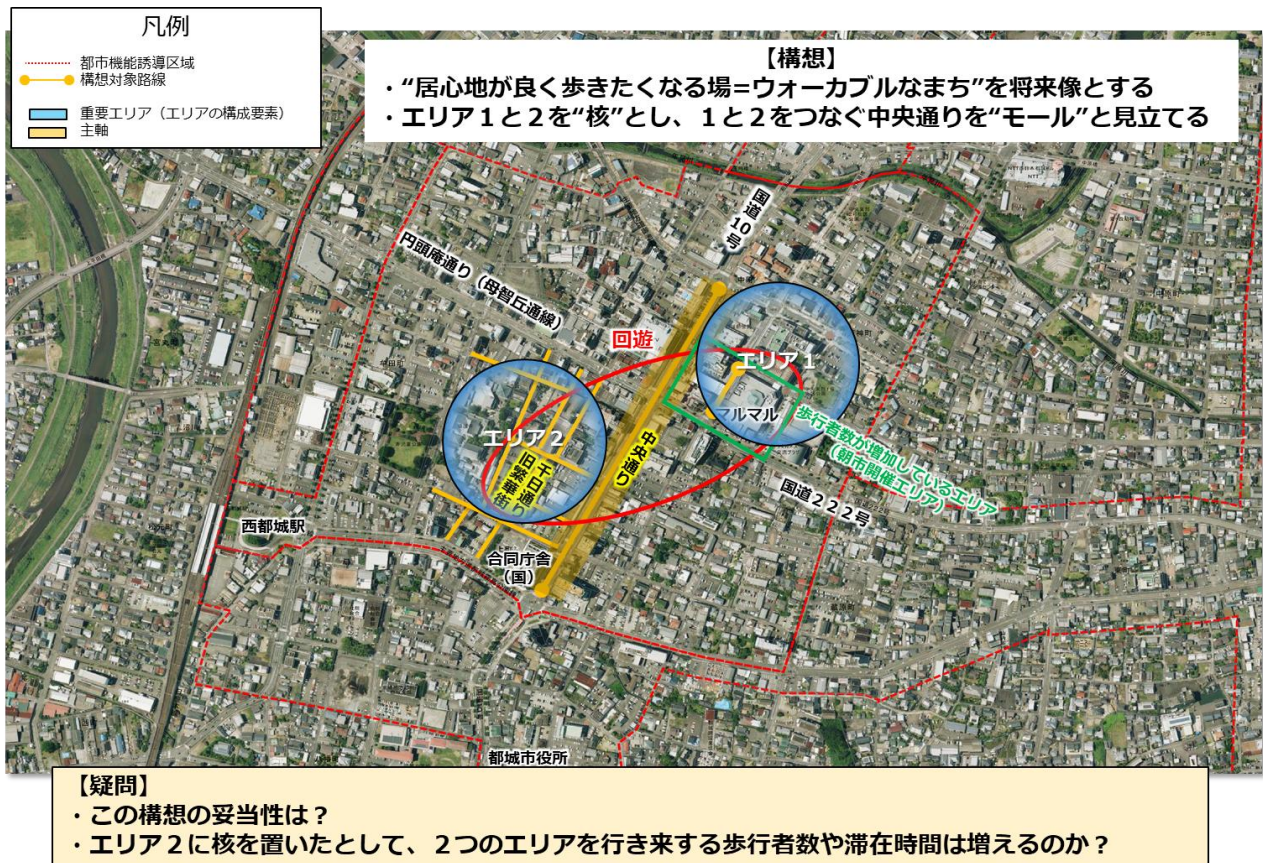
活動内容の概要は、以下のとおりである。

(当初予定していた実験内容について)

中心市街地全体の将来像として、「ウォーカブルなまち(居心地が良く歩きたくなるまち)」が理想であると仮定した。

まずは、第1段階の構想として、下図のとおりMallmall周辺を「エリア1」、千日通り周辺を「エリア2」とし、この2つの“核”を中心に、両エリアをつなぐ中央通りを“モール”と見立てた“2核1モール”を計画した。

この構想の妥当性や可能性を検証するために、エリア1で定期的に行われるイベントと併せて、エリア2及び中央通りにおいても同時多発的にイベントを開催し、滞留空間を設置することで、エリア1と2、モールと見立てた中央通りをつなげ、この時の人流の変化等を検証する予定であった。



ウォーカブルなまちを実現するために計画した第1段階の構想

(関係機関等との協議)

当初計画していた実験内容について、都城市商工部、都城まちづくり(株)、各通り商店街組織、各通りの店舗及び事業所、道路管理者である国土交通省(以下「国交省」という。)、宮崎県、都城市、交通管理者である宮崎県警察等、多数の関係機関と協議を実施した。

協議の結果、「大規模イベント開催のリスク」、「実施主体の不在」、「開催場所の確保困難」といった問題が浮き彫りとなり、実験の方向性を大きく修正する必要が生じた。

(実験目的・内容の再整理について)

[実施主体について]

千日通りで毎月イベント「千日通りのお宝市」を実施している商店があるという情報を得たため、本実験への協力要請をしたところ、承諾していただいた。

「千日通りのお宝市実行委員会」を設立し、自主研究グループも構成員の一員となってイベントを主催することとした。

[実験の規模について]

実験対象エリアを千日通り周辺(エリア2)に絞り、「千日通りのお宝市」の開催に併せて、公共空間の実験的利活用を行うこととした。

[実験の目的について]

構想自体は保持しつつ、エリア間の検証から、エリア内の検証に方向性をシフトする。

今回の実験で真に検証したい内容については、歩行者交通量の計測だけではなく、「滞在時間」と「消

費金額」の相関関係を定量的に計測することが重要であると整理した。そのため、実験エリアを縮小しても検証が可能であると判断した。

(実験の概要について)

実験内容の修正を踏まえ、以下のとおり実験の内容を決定した。

[対象エリア]

千日通り(摂護寺周辺)

[実施日]

令和7年11月15日(土)、12月14日(日)

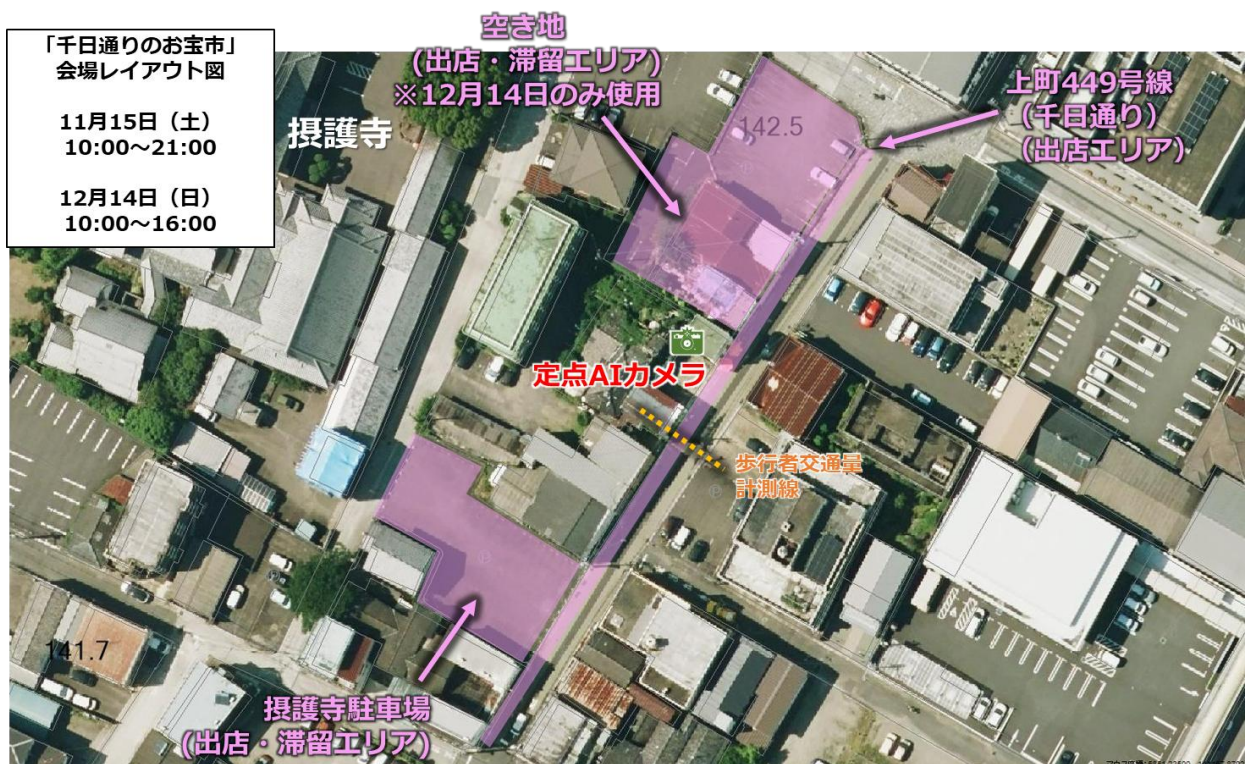
[内容]

千日通りで定期的に行っている「千日通りのお宝市」の開催に併せて、千日通りや低未利用地を占用し、イベント及び滞留空間を創出する。

[検証項目]

- ・歩行者交通量調査(AIカメラ)
- ・来場者の滞在時間調査(アンケート)
- ・来場者・出店者へのアンケート調査(滞在時間、回遊状況、消費金額・売上金額、満足度等)

通常の日曜日、通常イベント時(11月15日)及び本イベント時(12月14日)の3パターンで比較を行うことで、「滞留空間」が来場者の動向や消費活動にどのような影響を与えるのかを定量的なデータをもって解析する。



会場レイアウト

(地元調整)

千日通りの通行規制を実施するため、千日通り周辺の店舗、事業所、民家にイベント概要を記したビラを配布した。また、通行者に対しては、事前告知看板により周知を図った。

(許可申請等)

道路占用許可、道路使用許可を得る必要があるため、道路管理者である都城市維持管理課、交通管理者である都城警察署と協議・許可申請を行った。

(会場確保・設営)

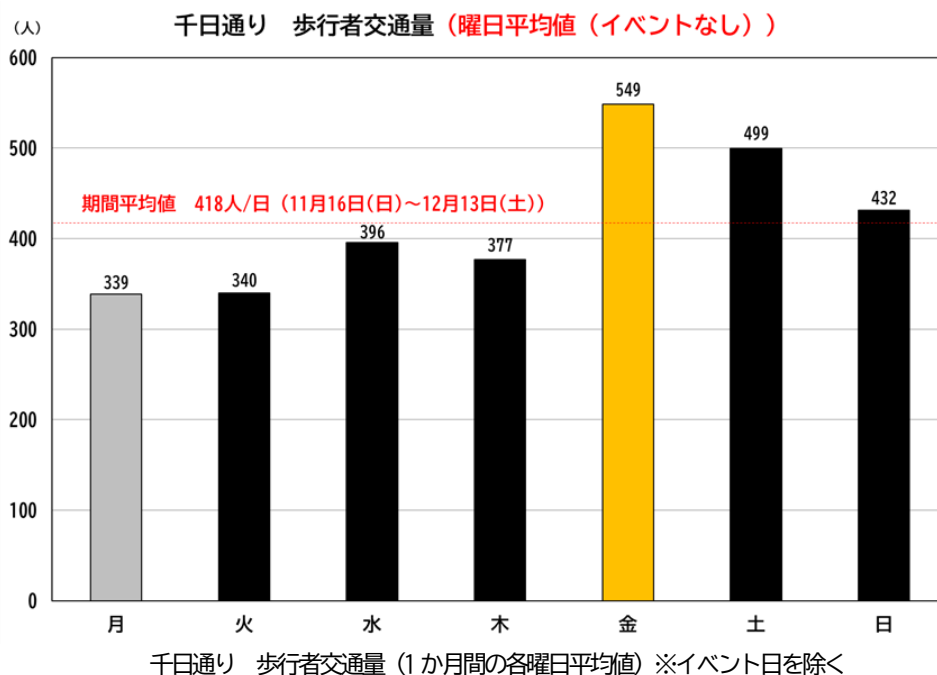
イベント会場として、千日通り(市道上町449号線)及び駐車場・空き地(民地)を借用する計画であるため、道路占用許可の取得、民地地権者への借地交渉を行った。

一部民地において、雑草の繁茂が確認されたため、イベント前日に除草・清掃を実施した。

(エリアの分析)

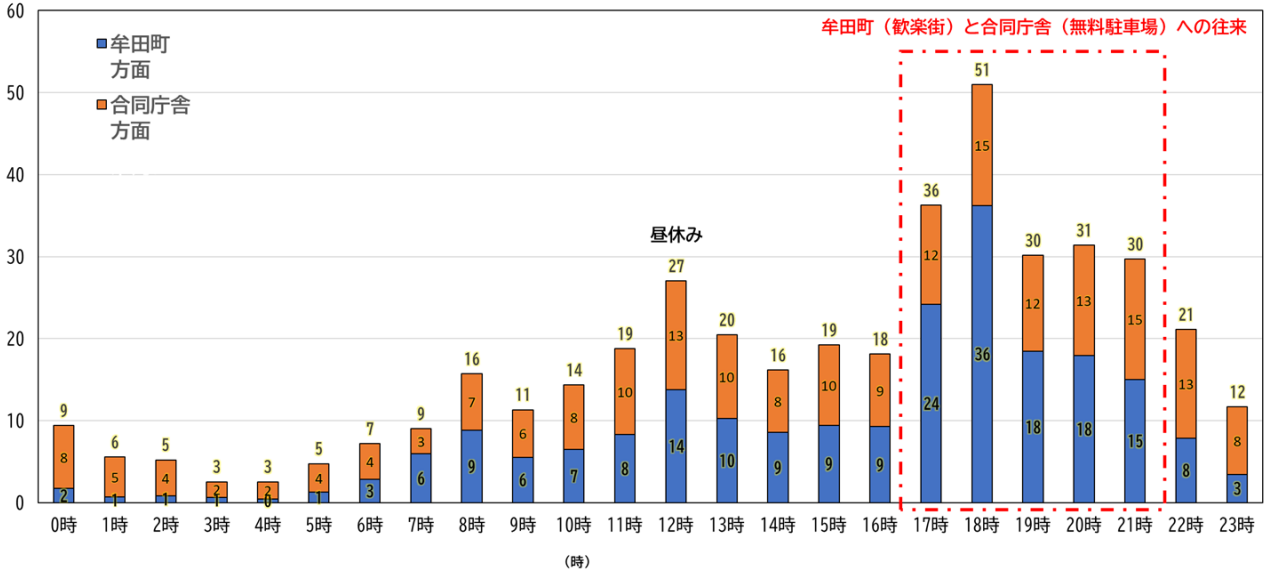
11月15日から12月14日まで歩行者交通量調査を実施し、千日通りに以下の特徴があることを把握した。

- ・昼よりも夜の交通量が多い(歩行者、車両ともに)。
- ・金曜日と土曜日の夜間歩行者量が相対的に多い。歓楽街である牟田町と大型無料駐車場(国合同庁舎)の動線上に位置しているため、飲みに行く人、飲みから帰る人の往来が多いと思われる。
- ・通りに滞在する人はほぼいない(立ち止まらずに通行するのみの人がほとんど)。
- ・データはないが、想像以上に車両交通量が多い。
- ・平時の交通量調査結果から、ストリートタイプの分析を行ったところ、通行レベルI、滞在レベルIという結果となった。



(人・h)

千日通り 歩行者交通量 (11月16日(日)~12月13日(土) 時間帯別平均)



千日通り 歩行者交通量 (1か月間の時間毎平均値)

リンク (通行) 機能
人やモノが移動するための機能

公共交通・乗用車・貨物車・自転車・徒歩等で目的地までの移動が行われる

プレイス (滞在) 機能
多様な活動を繰り広げる場としての機能

立ち止まる・座る・食べる・遊ぶ・買い物をする・パフォーマンスを行う等の活動が行われる

ストリートを構成する機能 (出典：ストリートデザインガイドライン (国交省))

都市空間におけるアクティビティの分類

□ 現状

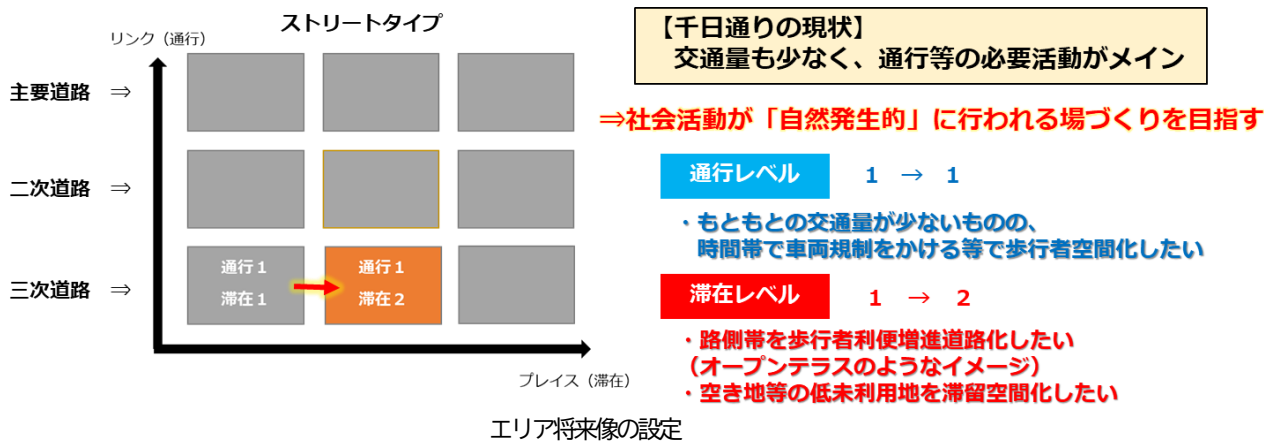
□ 目標

アクティビティタイプ	内容	具体例
必要活動 リンク機能	沿道等の目的地で目的を果たすための通行や立ち止まり	通勤、バス待ち、通行時の休憩、買い物
任意活動 プレイス機能	来街者一人であっても楽しめる、地域やストリート景観、自然、雰囲気を感じながらの遊歩、運動、滞在	散歩、まち歩き、ランニング、写真撮影
社会活動 プレイス機能 居心地のよい良質な空間で発生	ストリート上に複数の利用者が存在することによるコミュニケーションや出会いに基づく活動	遊び、来街者と住民の会話、生活風景を眺める
地域生活活動	社会活動のうち、特に沿道コミュニティの住民・店主等による日常的慣習としての活動	清掃、挨拶、井戸端会議、植栽の世話、見回り
地域文化活動	社会活動のうち、特に地域性のある祭り等、地域価値を高める目的で組織的に行う活動	祭り、 街路市 、打ち水、フリーマーケット
表現活動	社会活動のうち、特に芸術的・政治的な表現・言論、エンターテインメント性の高い活動	演奏、演説、大道芸、フラッシュモブ、パレード、募金

都市空間におけるアクティビティの分類 (出典：ストリートデザインガイドライン (国交省))

(エリア将来像の設定)

歩行者交通量調査の結果、通りで行われているアクティビティが通行等の必要活動に限られていることが明らかになったため、「社会活動が自然発生的に行われる場」を目指すことが望ましいと考えられる。



(その他イベント・実験の準備)

イベントの準備として、以下の項目を実施した。

- ・共同主催者との打ち合わせ (役割分担、出店者募集状況、会場レイアウト、地元調整状況 等)
- ・定点 AI カメラのメーカーとの打ち合わせ
- ・保険会社打合せ (イベント保険)
- ・定点 AI カメラの試行設置、本設置、撤去
- ・都城商業高等学校への参加呼びかけ、説明会の実施
- ・警備会社との打ち合わせ (交通誘導員及び規制看板の配置計画)
- ・消防署との打ち合わせ (露店開設届)
- ・都城まちづくり (株) への備品借用申請 (机、テント、人口芝)
- ・イベント告知用ポスターの印刷及び看板設置 (道路占用許可、使用許可、屋外広告物許可)
- ・会場装飾の打合せ (Giardino (花屋) に会場装飾を依頼)
- ・アンケート様式の作成

4. 研究の成果、効果

(レイアウト)

イベント両日における詳細なレイアウトは、以下のとおり。実験両日において、店舗数に差異が生じないように調整を行った。12月14日には、滞留空間をより多く配置している。

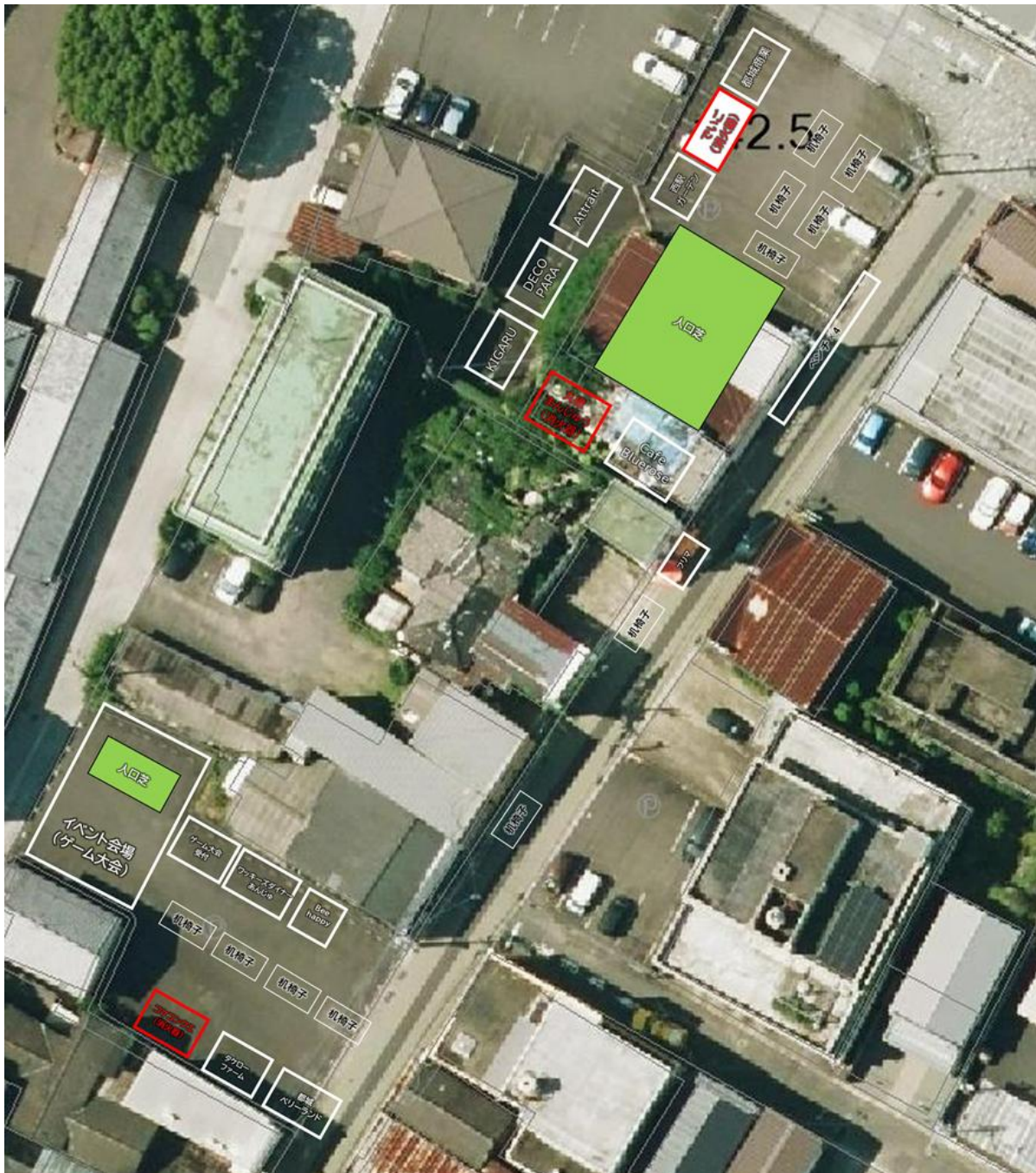
※12月14日は、人口芝のスペースを設けるために、会場を2分割している。

種別	単位	11月15日（土）	12月14日（日）
飲食	店舗	8	8
物販	店舗	3	2
射的	店舗	1	1
机	台	4	11
椅子	脚	16	44
人工芝	m ²		80

実験日における店舗数等の比較



11月15日（土）の会場レイアウト



12月14日(日)の会場レイアウト

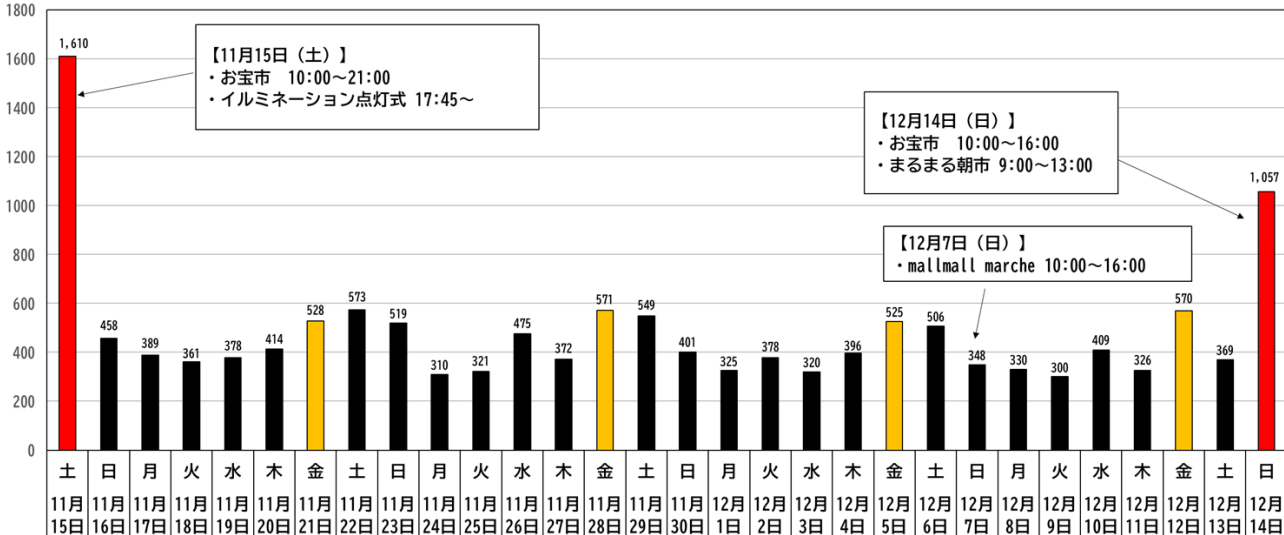
(歩行者交通量調査結果)

- ・11月15日の歩行者交通量は1,610人であり、通常の土曜日と比較して3倍程度となった(499人/日(1か月間の平均値))。イベント時間帯における歩行者数は429人であり、通常の土曜日と比較して4.7倍となった(91人/10:00~16:00(1か月間の平均値))。
- ・11月15日は、Mallmallでイルミネーション点灯式があり、Mallmallから中央通りを経由して国の合同庁舎までの一連の区間がイルミネーションでつながったため、千日通りのイベントに人が流れたと思われる。
- ・12月14日の歩行者交通量は1,057人であり、通常の日曜日と比較して2.5倍程度となった(432人/日(1か月間の平均値))。イベント時間帯における歩行者数は684人であり、通常の日曜日と比較し

で5.1倍となった(132人/10:00~16:00(1か月間の平均値))。

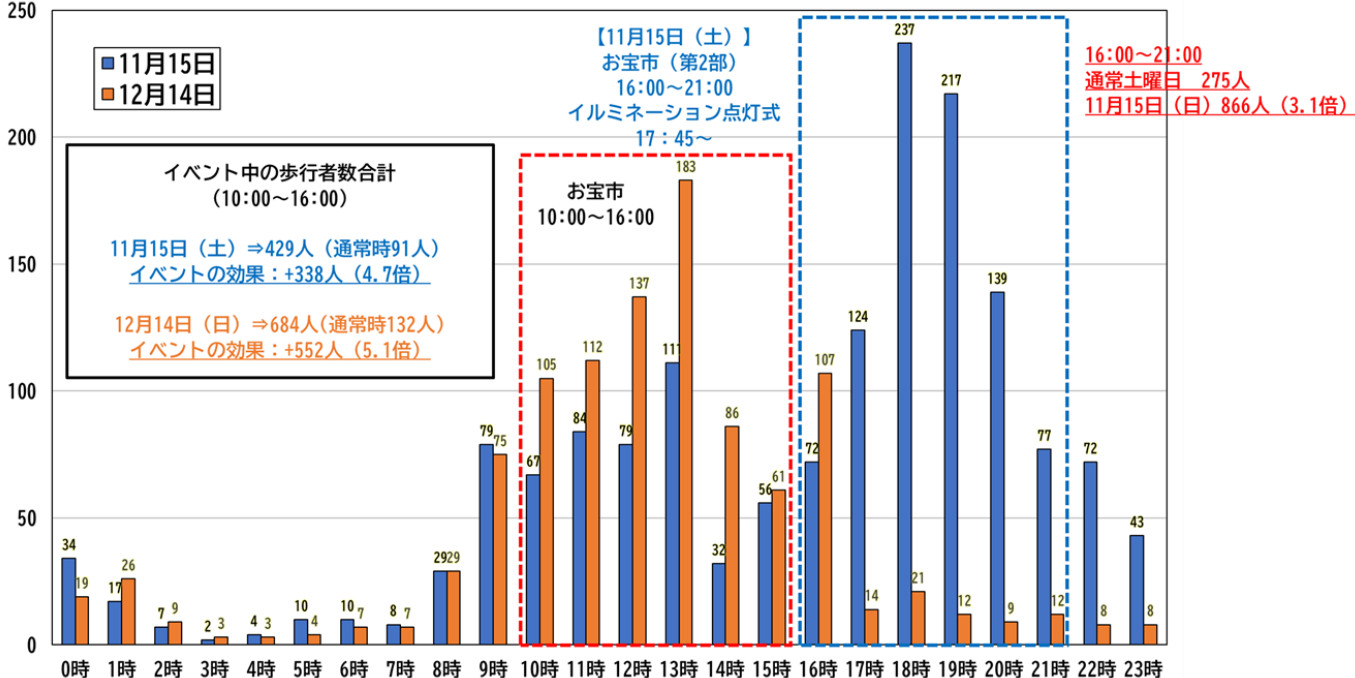
- ・12月14日は、Mallmall朝市が同時刻で開催されており、少数ではあるが、千日通りまで人が流れたと思われる。
- ・実験とは関係しないが、12月7日に、Mallmall周辺で拡大マルシェが実施された際の千日通りの歩行者交通量は増加していない。

千日通り 歩行者交通量 (令和7年11月15日~12月14日 (30日間))



千日通り 歩行者交通量 (令和7年11月15日~12月14日)

千日通り 歩行者交通量 (イベント日比較)



千日通り 歩行者交通量 (イベント日比較)

(アンケート結果)

アンケートは、各イベント日に、来場者及び出店者に対して実施した。

アンケートの項目については、以下のとおりである。

(来場者用)

- 1 回答者の属性
- 2 本イベントでの滞在時間と購入店舗・購入金額について
- 3 滞在状況について(立ったまま or 着座)
- 4 まちなかの回遊について
- 5 本イベントの満足度について
- 6 千日通りについて(訪問頻度と目的)
- 7 自由記入欄(中心市街地への要望など)

(出店者・店舗用)

- 1 回答者の属性
- 2 イベント両日における出店時間
- 3 滞留空間の配置についての感想
- 4 イベント両日における売上げの変化について(増えた or 減った)
- 5 自由記入欄(中心市街地への要望など)

来場者に対するアンケートの回答状況については、11月15日の有効回答数が13、12月14日の有効回答数が10であった。

ここでは、滞在時間と消費金額部分のみを抜粋して報告する。

各イベント日で得られた消費金額と滞在時間を散布図で表現し、滞在時間を説明変数(x軸)、消費金額を目的変数(y軸)とし、その関係を単回帰分析¹により分析した。

分析結果は以下のとおりである。

- ・11月15日は、消費金額と滞在時間が負の相関を示した。
- ・12月14日は、消費金額と滞在時間が正の相関を示した。しかし、両日ともにサンプル数が少なく、決定係数 R^2 が0.5を大きく下回っており、信頼性は非常に低い。
- ・アンケートにおいて、来場人数を記載する欄を設けておらず、家族数人で消費した金額と1人で消費した金額が入り混じっていることも、信頼性を下げている要因であると考えられる。
- ・店舗へのアンケート調査では、両日の売り上げは“変化なし”という結果であった。

千日通りの
お宝市!!
12月14日 日 開催!
10:00~16:00

キッチンカー
フリマ
ワークショップ
都城商業高校の出店も!!
クリスマス企画も予定
パイブレードX&スマブラ大会決勝

大人の参加も待ってます!
←お申し込みはコチラ

お問合せ・お申込み
080-3986-4314

~会場~
攝護寺 駅 徒歩
ワキースタイナー様
(都城市上町4-6)

令和7年度市町村職員自主研究グループ支援事業
主催者：千日通りのお宝市実行委員会
※この事業には、宝くじの収益金が活用されています。

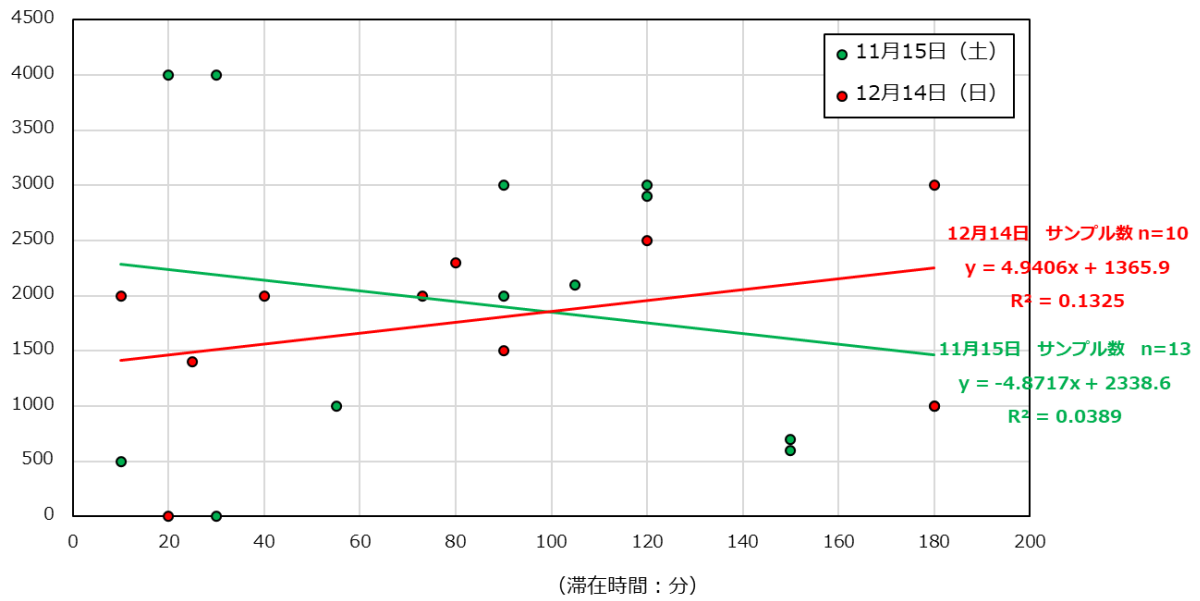
「千日通りのお宝市」開催ポスター

¹ 単回帰分析とは、1つの結果(目的変数y)を1つの要因(説明変数x)で予測・分析する統計手法のこと。

² 決定係数Rとは、回帰分析により推定された回帰式の当てはまりの良さを示す指標で、0から1までの値で表現されるもの。

(消費金額：円)

滞在時間と消費金額の相関図



滞在時間と消費金額の相関図



11月15日 (土) のイベント状況



12月14日 (日) のイベント状況

5.まとめ

(エリアの分析)

千日通りは金・土曜日の17時から21時に歩行者交通量が最も多くなる。

⇒牟田町と大型無料駐車場(国合同庁舎)の動線上であり、通行等の必要活動(滞在レベル1)がメインとなっている。

(エリアの将来像)

通行レベルを時間帯に応じて落とし、滞在レベルを歩行者利便増進道路化や空き地等の活用により1から2に上昇させたい。

⇒居心地のよい空間で起こる「社会活動(滞在レベル2)の自然発生」を目標とする。

(実験について)

11月15日と12月14日のイベント開催日において、滞留空間の有無を比較対照とした実証実験を実施した。

(実験の結果について)

- ・11月15日のイベント時間帯における歩行者交通量は、通常日と比較して4.7倍となった。
- ・12月14日のイベント時間帯における歩行者交通量は、通常日と比較して5.1倍となった。
- ・イベント等により、Mallmall、中央通り及び千日通りが一連区間としてつながると、一定数の人数が回遊した。

⇒エリア単体のイベントでは、他エリアまでの回遊は発生しない。

- ・滞留空間と消費金額の関係については、サンプル数が少なく、データのばらつきが大きかったため、単回帰分析による信頼性の高いデータを得ることができなかった。
- ・イベントの来場者数が少なく、用意した滞留空間(机や椅子、人口芝)に滞在する人がほとんどいなかった。
- ・滞留空間は、魅力あるコンテンツの効果を増幅させる装置であり、言い換えると、コンテンツに魅力がなければ、滞留空間の効果は発揮されないと思われる。
- ・にぎわい創出を実現するには、コンテンツのブラッシュアップと滞留空間の創出を同時並行して行うことが重要である。

(課題)

実験を通して感じた課題は以下のとおりである。

- ・イベント時における「消費金額と滞留空間」の関係を明らかにすることは困難であった。

⇒当日の気候・気温、周辺でのイベントの有無等の不確定要素があり、比較イベントの条件を完全に揃えることが難しい。

⇒歩行者利便増進道路化(ほこみち化)³を目指した実験であったが、回りくどいことをせずに、単刀直入

³ 歩行者利便増進道路化(ほこみち化)とは、指定要件を満足する道路の占用許可基準を柔軟にし、カフェやベンチ等の占用物件を置きやすくすることで、通りに賑わいを生むことを目的とした制度のこと。

にほこみち化の実験(3か月ほど)をして『消費金額と滞留空間』の関係を検証してもよかったと感じた。

・滞留空間の質が低い(椅子・机と人工芝を置いただけ)。

・来場者数が少なく、そもそも滞留空間に滞在する人があまりいなかった。

⇒コンセプト、告知、会場のメイキング、店舗・商品の全てにおいて、相当な練り直しが必要である。

・本イベントは商店街の一部有志で実施しているものだが、商店街全体としての協力や応援が欠けている印象を受けた。

⇒商店街全体で将来の方向性・ビジョンに向けて取り組むための方法を考える必要がある。

(今後の展開について)

実験を通して明らかとなった課題を基に、来年度以降の展開を以下に記す。

①商店街組織・各店舗との対話を実施

・商店街組織と各店舗が対話をする機会を設けて、今後の千日通りのあり方を話し合いたい。

②長期的な“ほこみち化”の実験を実施

・デッドスペースとなっている1m程の幅を長期占用(3か月)し、オープンカフェ・テラス化を実施。

・あわせて、滞留空間の質(どのような設えて効果が出るのか)や滞在時間と消費金額の関係も検証する。

③“ほこみち化”と併せた空き地等の長期的な有効活用

・千日通り周辺の空き地等を、ほこみち期間と併せて自由スペース化(一部使用料を徴収)する。

⇒イベント等の開催に必要となる手続き・調整を大幅に削減し、アクティビティの自然発生を促進させる。

⇒効果的なプレイスメイキング法や持続的な自由スペースの運営方法も併せて検討する。

④イベントの戦略的な練り直し

・コンセプトから徹底的に練り直す。

・千日通りの特性上、夜間は牟田町とつながるため、夜間にイベントを実施する等、歩行者交通量調査結果を生かした取組を検討する。

以上の①から④までの取組により、イベント時だけではなく、平常時における歩行者交通量及び滞在時間を押し上げ、日常的な社会活動の発生を目指していきたい。